大阪成蹊 ＊Osaka Seikei＊
学園報 WAVE

第36号
2020年1月9日発行
発行 学校法人 大阪成蹊学園
広報企画本部 広報企画部
〒533-0007
大阪市東淀川区相川3丁目10番62号
TEL：06-6829-2606
https://osaka-seikei.jp

大阪成蹊大学

世界陸上2019ドーハに出場 青山聖佳選手

大阪成蹊大学卒　現職員

写真提供 SHOT

男女混合4×400mリレーに出場し日本記録を更新

大阪成蹊大学の卒業生で、現在大阪成蹊大学職員である青山聖佳選手が、2019年9月27日（金）～10月6日（日）、カタールの首都ドーハで開催された「第17回世界陸上競技選手権大会」に男女混合4×400mリレーの代表選手として出場しました。

青山選手は島根県松江商業高等学校出身で、2015年に大阪成蹊大学に入学。在学中4年間女子陸上競技部に所属し、エースとして同部の活躍に大きく貢献しながら、国内外の大会で素晴らしい結果を数多く残してきました。2019年の卒業後は大阪成蹊大学職員として勤めながら、引き続き女子陸上競技部を拠点とし、瀧谷賢司監督の指導のもと、2020年の東京オリンピック出場をめざして練習を重ねています。一時はスランプに苦悩したこともあった青山選手でしたが、2019年6月に行われた日本選手権では女子400mで3年ぶりに日本一の座に返り咲いたことで注目が集まっていました。

今回の世界陸上競技選手権大会は、開催が迫る東京オリンピックの前哨戦と位置づけられ、東京オリンピックでメダル獲得を狙う選手が多数出場しており、非常に注目される中での開催となりました。実施種目は49種目、210の国・地域から男女2000人超にのぼる数の選手が参加し、日本からは、男子40名、女子19名の代表選手が出場。青山選手が出場したのは、2020年東京オリンピックの新種目としても注目される「男女混合4×400mリレー」です。東京オリンピックでは、陸上競技だけではなく競泳や卓球、柔道、トライアスロンなど複数の競技で男女混合の新種目が追加されています。

男女混合4×400mリレーのチーム編成は男女各2名。男女の走順は決められていないため、その最後まで読めない展開に観客席が大いに湧いたレースとなりました。他のほとんどの国とは正反対の「女子・男子・男子・女子」の布陣で挑んだ日本チームでは、青山選手が第一走者として走り、第三走者では日本がトップに躍り出るシーンもありました。結果は惜しくも予選8位で決勝進出は叶いませんでしたが、チームはこれまでの日本記録であった3分19秒71を更新し、3分18秒77の新記録を樹立しました。

さらに国体女子400mで優勝

帰国した青山選手はその後すぐに、10月4日（金）～8日（火）に茨城県で開催された「第74回国民体育大会」に島根県代表として出場。女子400mで日本選手権に続き、53秒74の記録で見事優勝を勝ち取りました。

さらにその後青山選手は、10月19日（土）に新潟県のデンカビッグスワンスタジアムで開催された「Denka アスレチックスチャレンジカップ2019」の女子200mと400mに出場。「日本グランプリシリーズ」14大会の中の1つであるこの大会にも、オリンピック出場を狙うトップアスリートが集いました。青山選手は、200mでは3位、400mでは国体に引き続き見事優勝を飾りました。

今年はオリンピックイヤー。オリンピック出場への鍵となるのが、2020年6月25日（木）～28日（日）にヤンマースタジアム長居（大阪）で開催される「第104回日本陸上競技選手権大会」です。青山選手を、大阪成蹊学園一丸となって応援しましょう。

写真提供 月刊陸上競技

写真提供 月刊陸上競技

青山選手コメント

昨シーズンは目標であった日本選手権優勝、ドーハ世界選手権に出場することができ充実した1年となりました。スランプに陥り陸上競技から離れることも考えましたが、多くの方の支えがあり、復活することができました。ですが、課題も多くあるので、これからの練習で改善していきます。そして、東京五輪の400mと4×400mリレーに出場できるよう精進していきます。

瀧谷賢司監督
スポーツ＆カルチャーセンター副センター長
大阪成蹊大学 女子陸上競技部監督
大阪成蹊大学 マネジメント学部教授

監督コメント

約2年間の試練期を乗り越えた結果、昨年のシーズンは予想以上の成績を残す事が出来ました。何事も諦めることなく、可能性を信じることの大切さを改めて感じることが出来ました。

2020年はオリンピックイヤーです。昨年11月からはオリンピックに向けての厳しい鍛錬を続けています。青山選手の良さは純粋・素直に頑張り通せる力を持っているところです。目標はリレーの出場権獲得も一つですが、400mで日本記録を更新し、青山個人が、400mで出場することが最大の目標だと思っています。

大阪成蹊学園の力を追い風に頑張ってくれると思います。背中を押してあげてください。

監督経歴

2012年創部以来女子陸上競技部をきめ細やかに指導し、2015年の天皇賜杯第84回日本学生陸上選手権大会で総合3位の後、2016年には創部5年目にして初の総合優勝を勝ち得た。2017年には総合3位を手中に収め、大学陸上競技界で強豪校との評価を得ており、世界陸上競技選手権大会、ユニバーシアードに選手を輩出している。また、2020年東京オリンピック向けて、日本女子リレー強化コーチとしても活動している。

青山選手のおもな戦績

2015年	第15回世界陸上選手権大会（北京） 4×400mRで3分28秒91の日本新記録を樹立。
2016年	第100回日本陸上競技選手権大会400m優勝。
2017年	吉岡隆徳記念第71回出雲陸上競技大会 300m 37秒76の日本最高記録樹立。
2019年	第103回日本陸上競技選手権大会 兼 ドーハ2019世界陸上競技選手権大会 日本代表選考競技会400m優勝

第36号 学園報 WAVE CONTENTS

2面 大阪成蹊大学の新たな初年次教育 テーマは「SDGs」
3面 公共政策コース「『新しい公共』の実現に必要な力をつける」
4面 糸曽賢志教授監督作品「サンタ・カンパニー」公開
5面 海外研修体験記
6面 びわこ成蹊スポーツ大学　5人のJリーガー誕生
7面 大阪成蹊学園の活躍するアスリートたち
8面 アート＆デザインコンペティション審査結果、こみち幼稚園だよりほか

大阪成蹊大学

Close Up（クローズアップ）！ 教育改革

大阪成蹊大学の初年次教育が変わります

社会を俯瞰し、物事の間の多様なつながりを理解する学び

「SDGs」を題材とした新たな初年次教育

マネジメント学部
成瀬 尚志准教授
教育改革プロジェクト
「初年次教育の確立」リーダー

大阪成蹊大学では教育の質をさらに高めるべく、多くの教育改革プロジェクトを推進しています。その一環として2020年4月から施行されるのが、1年次に行われる初年次教育のカリキュラム改革。本学における初年次教育は、大学4年間にわたる学習や大学生活をスムーズにスタートさせるための基礎的な位置づけにとどまらず、物事を適切に捉えて判断する問題解決能力を養い、学生一人ひとりが自らの将来設計を考える力を身につけるといった重要な役割を担っています。

そんな本学の新たな初年次教育が題材として定めるのが「SDGs（持続可能な開発目標）」。SDGs を大学初年次教育で学ぶ意義は何なのでしょうか。

重要視される「SDGs」。国家レベルではなく、個人の問題でもある

SDGs は、近年様々な局面で取り上げられるようになってきました。高校の総合学習で SDGsについて学んだ学生もいるかも知れません。しかしそれが具体的に何なのか、はっきりわかっていない方も多いのではないでしょうか。SDGs とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な世界を実現するために、2016年から2030年までに全世界で目指す目標」のことです。地球温暖化の問題も含め、世界環境の持続・維持が様々な場面で危ぶまれ始める中で、持続可能な世界を実現するための 17 のゴールと、169 のターゲット（＝目標の中身をさらに具体的に細分化したもの）が設定されたのです。

これまでも国連は持続可能な世界を実現するために様々な努力を行ってきました。たとえば、2000 年に国連のサミットで採択された「MDGs（ミレニアム開発目標）」では「極度の貧困と飢餓の撲滅」などを含む 8 つの目標を掲げました。MDGs は一定の成果を上げたものの、先進国が途上国を支援することが中心となっていました。そこで 2015 年に、先進国だけでなく途上国も一緒に取り組む目標として SDGs が掲げられたというわけです。

このように書くと SDGs は「国家レベル」の問題のような印象を持つかもしれませんが、決してそうではなく、皆さんの生活に関わる非常に身近な問題として改めて認識していただきたいのです。たとえば、17の目標の中には「働きがいと経済成長」に関する項目も含まれます。昨今各企業では人手不足が深刻な問題となる一方で、労働者の過重労働の問題なども放置できず、「働き方改革」というワードが常に取り上げられています。企業もこれまでのやり方を踏襲していては事業を継続できない、つまり「持続可能性」を実現する必要があるのです。このように、SDGs がめざす持続可能性とは国家レベルだけの遠い話ではなく、企業や行政、地域、ひいては皆さん個人のレベルに落とし込まれるべき問題なのです。

「SDGs」の初年次教育への導入

世界中の国はもちろん、現在では様々な企業、教育機関などが SDGs 達成に向けた取り組み、教育、研究を積極的に行うことを表明しています。知らないでは済ませられない SDGs に関する知識を、皆さんにもしっかりとつけていただきたいと思っています。SDGs は現代の最たる教養のひとつと言っても過言ではないでしょう。

2020年4月からの初年次教育科目「スタディスキルズ」の授業は、SDGs をテーマにカリキュラムを編成しました。この授業は本来大学での学習を進めるために必要なレポートライティングやプレゼンテーションのスキルなどを身につけることを目的とした授業ですが、そこで SDGs を題材としたオリジナルの資料を使用し、SDGsのそれぞれの目標についての理解を深めながら、並行して上記のスキルを身につけていくことを想定しています。

「SDGs」の各目標を題材に、問題分析力と提言力を鍛える

授業は次のようなステップで進めていきます。まず、①「聞きなれた言葉でも、改めてその意味を問い直す」。たとえば、「地球温暖化」という言葉をよく耳にするかもしれませんが、何年後にどれほど気温が上昇し、それによってどのような問題が生じるのか、具体的に説明できる人は多くないのではないでしょうか。このように、SDGsには聞き慣れた言葉がたくさん出てきますが、常にその言葉がさす真の意味・内容を問い直し学び直すことで、何事も批判的に考える姿勢を身につけます。次に、②「客観的データに基づいて現状を分析する」。世の中に存在するあらゆるデータの解釈の仕方を練習するとともに、客観的データに基づいて問題を把握・分析するという基本的な研究の姿勢を身につけます。次に、③「一つの社会的な問題が、他の様々な問題と連関していることを知り、多角的に物事を捉える必要性を知る」。SDGsの各目標はばらばらのことをめざしているようで、実はそれぞれ密接に繋がり合っています。たとえば、目標11の「住み続けられるまちづくりを」を考えるためには、単にまちづくりのことだけでなく、そもそもそこに住む人たちのことを多面的に考察しないといけません。そうすると、目標1の「貧困をなくそう」や目標3の「すべての人に健康と福祉を」、目標8の「働きがいも経済成長も」など、多くの目標が関わってくることが自ずと見えてくることでしょう。このように考えることにより、一つの物事を多角的に捉える力を養います。最後に、④「持続可能な世界の未来に向けた、独自性と説得力のある提言を行う」。それまでの学びを踏まえ、持続可能な未来に向けた具体的な提言を授業内で行ってもらいます。持続可能な世界を実現させることは容易なことではなく、17のゴールと169ものターゲットが設定されているように、クリアすべきことは山のようにあります。つまり、皆さん一人ひとりが考え、提言できることもたくさんあるということです。

SDGs をキャリア形成に取り入れる＝「自分たち自身の未来」を変える

以上のように授業を進めることで、グローバルな視点から物事を捉える力、調査・分析を重ねる力、世の中の変化を予測する力、思考や対話を通して自らの考えを形成する力、根拠を示して適切に表現する力など、「人間力」を構成する重要なスキルが身につくことでしょう。しかし本学が初年次教育で SDGs に取り組むのは、こうしたスキルを身につけるためだけではありません。まずは、世界全体でどのようなことが問題になっていて、それに対してどのような取り組みがなされているのかを知ること。それは皆さんが今後生きていく上であらゆる問題の「当事者」となる以上、必要不可欠なことです。さらにそうした社会情勢を知った上で、自分自身の将来設計を考えてほしいと思うからです。これは何も直接的に人助けをするような職業に就いてほしいということではありません。SDGs の各目標はそれぞれ繋がりあっており、同じことが皆さんの将来についても言えます。つまり皆さんの将来の生き方（職業から日常生活まで）が、世界中の人々と何らかの形で関わり合っているということを意識してほしいのです。そう考えれば、将来のキャリアの選択肢の幅や意味も変わってくるのではないでしょうか。将来やりたいことを、世界の新たな「共通言語」とも言うべき「SDGs の観点から」説明できるようになることは、就職活動で有利になるだけでなく、皆さんの可能性を大きく広げることに繋がるのです。

SDGs がめざす「世界を持続可能にすること」においては、変えられるべき対象は世界のほうであるように思えました。しかし、本当は SDGs を通して「わたしたち自身の未来が変わる」という点こそが重要なのです。物事の間の多様なつながりを理解し、たった一人の人間にも無限の可能性が開かれていることをぜひ知ってください。そして、ぜひ皆さん自身の未来を変えてほしいと思います。

▲SDGs 17のゴール

大阪成蹊大学

※2020年4月、マネジメント学部は経営学部に、マネジメント学科は経営学科に名称変更します。

2020年4月 経営学部経営学科「公共政策コース」開設を控えて

「『新しい公共』の実現に必要な力をつける」担当教員メッセージ

大阪成蹊大学
経営学部（現マネジメント学部）
大塚 康央 教授

前茨木市副市長。約40年間茨木市役所で働き、おもに都市整備を担当。「彩都」には構想段階から深く関わり、工場移転地での新たなまちづくりを進める。副市長としては、市全体の都市経営を考えながら市民の暮らしを支えた。

彩都とは… 彩都（国際文化公園都市）は、茨木市北部から箕面市東部にかけての丘陵地に位置し、茨木市の中心市街地から北方へ約5キロメートル、大阪都心部から北方へ約20キロメートルにあり、都心部から近いという好条件を備えています。建設は、大阪府・茨木市・箕面市のほか、都市再生機構をはじめ、民間開発事業者や経済団体、大学、研究機関など、産学官が一致協力した取り組みを進めています。

信頼される職員であることが大切

2020年4月、公共政策コースが、いよいよスタートします。コース名に用いられた「公共政策」、なんとも堅苦しい言葉です。けれど、これは多くの人にとって身近で、そして大切なものです。私の経験をご紹介しながら、「公共」について一緒に考えてみたいと思います。

私は、茨木市副市長を退任するまでの40年と16日、茨木市職員として働いていました。大半の時間、まちづくり、都市整備に関する仕事を担当しました。彩都（※右上図参照）、安威川ダム、新名神、中心市街地活性化、市民参加の取り組み、工場移転跡地の利用などです。市の基本的な計画作成も中心になって進めてきました。大阪府にも2年間派遣され、広い視野で都市を考える機会になりました。数年前、若手職員との懇談会があり、「苦労したことは何ですか？」と問われ、「苦労ではないけれど」と前置きして話したことを紹介します。

憲法で財産権は保障されていますが、法で規制・制限することができます。都市計画は、それができる仕組みです。市街化区域、市街化調整区域という土地の利用に関係する区域の区分（「線引き」といいます）を在職期間中計4回担当しました。この「線引き」だけでなく都市計画は、多くの人の利害に関係する責任の重い仕事でした。彩都を担当していた時は、大阪府や箕面市のほか都市再生機構、民間開発事業者、研究機関、そして地域住民の皆さんなどさまざまな利害関係者と仕事を進めました。そのような大きなプロジェクトだけでなく、まちづくりを進めるためには関係する多くの人に説明をして、意見を聴き、話し合うことが大切で、その前提となる知識や情報をしっかり持っておくことが必要です。そして、最も重要なのは、「信頼される職員になる」ということだったろうと考えています。

技術士試験にもチャレンジ

仕事の傍ら、自分の知識経験を試す意味もこめて技術士(※)試験にチャレンジし合格しました。

当時の第二次試験は、与えられた記述式の問題、数問が与えられ、答えをひたすら書き続けなければなりません。400字15分見当で一日に１万字以上書く試験です。答えには、自分の考えを示す必要があります。普段から、いろいろ考えておかないと合格は難しい試験でした。また、社会人大学院では、財産権に関わる都市計画の正当性を生み出すのは何か？について、住民の合意形成、公正な手続きに焦点をあて研究しました。

市議会での副市長退任あいさつで事務職員だったことを話すと、多くの議員は私を技術職員と思っておられたようで驚かれたようでした。畑違いでも仕事ができる、日々、学び、経験を積んでいくことが大切だということです。

(※)「技術士」は、国によって科学技術に関する高度な知識と応用能力が認められた技術者で、科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威のある国家資格です。（編集部注）

学生を全力でサポートします

このような経験を経てきたのですが、大学、特に公共政策コースで学んでほしいことを自分なりに述べたいと思います。

公共政策コースでは、社会や地域の問題、課題を解決し、暮らしを良くしていくために何が必要かといったことを考えていきます。正解は一つではありません。また、多くの人に関係します。人それぞれの事情も異なり、いろんな意見、様々なものの見方があります。広い視野をもって、考えていかなければなりません。大学では、社会で活躍するために必要な基礎的な知識、情報を得るだけでなく、人の意見、考えを聞き、尊重する、他の人と協働して課題解決に取り組むことの大切さを学ぶ場でもあります。

高校までと異なり、自分で研究対象をみつけ、分析し、自らの意見、考えを明らかにしていくことになります。そんな力を育てられるよう、これまでの経験を活かし全力でサポートしていきます。

大阪成蹊大学
経営学部（現マネジメント学部）
大島 博文 教授

銀行勤務を経て、神戸市役所に入庁。阪神・淡路大震災の時の神戸市の防災担当職員として災害対応にあたるほか、将来的な方針を盛り込んだ総合計画の策定に携わる。またシンクタンク主任研究員として防災・災害からの復旧・復興、NPO、コミュニティ政策など幅広い研究や講演活動に取り組んでいる。

震災復興のあゆみ

やりがいのある仕事を幅広く経験してきました

私は大学卒業後、金融機関を経て神戸市役所に入り30年間、様々な仕事をしてきました。公務員の仕事として「採用から定年まで、同じ仕事を黙々とこなしている」と思われがちですが、多種多様な仕事があり、私自身も、何度も転職したのではないかと思うほど多くの仕事を経験しました。都市計画、施設建設、防災、ＮＰＯ支援、下水道経営、市営住宅、空港振興、福祉事業企画、市営交通経営企画・ＩＣカード導入、国勢調査、総合計画策定、タワーマンション対策、政策を1から企画するシンクタンク業務等々、数え上げればキリのないほどです。

その中で特に印象に残っているのが、阪神・淡路大震災時の防災業務と市営交通（地下鉄、市バス）の経営企画やＩＣカード導入を行う仕事でした。防災業務は数年にわたって昼夜を問わず取り組み、救急・救助、避難所開設、仮設住宅建設、応急物資確保等の応急対応や地域防災計画策定、防災行政無線再構築、災害待機宿舎の建設等の復旧復興対策に取り組み、住民の皆さんが本当に困っているときの下支え役を果たせるやりがいを感じました。また、市営交通の経営企画や地下鉄やバスへのICカードの導入業務ですが、防災業務とはまた違ったやりがいを感じました。料金制度を工夫してどのような割引を行えば繰り返し使ってもらえるのかを考えたり、ICT推進担当として、関西一円でPitapaやICOCA等を鉄道やバスで使えるよう、鉄道会社の皆さんと力を合わせたりし取り組みました。「地域経営」と呼ばれるように、公務員だけでなく地域の企業や団体と協力してこそ大きな事業を成し遂げられると実感しました。

夢を叶えるための環境が充実

以上でご紹介したとおり公務員や公益的な企業や団体での仕事には大きな魅力があり、公共政策コースでは、公益的な仕事を志望される皆さんの夢が実現するよう全力でサポートします。本コースには、３つの大きな特徴があります。①幅広く実践的な学び、②多様な教員による少人数教育、③公務員試験対策学内ダブルスクール「公務員Passプログラム」です。経営学を中心として、法学、経済学、社会学など幅広く学び、公益を担う人材として必要な素養を身に着けるとともに、自治体やNPO、企業等で地域の課題を解決する取り組みを学び実践力を身に着けます。また、経験豊富な実務教員や公務員試験の指導経験など様々な経験を持つ教員が少人数の学生に対してきめ細かい教育・指導を行い、公務員や公益的な企業・団体で仕事をするという将来の目標に向けて安心して学べる環境が充実します。

原点は、「人のために役にたちたい」

自治体や地域の公益企業・団体で行う人々や地域のための仕事は、10年、20年と継続的に取り組んでようやく成果が出るものもあります。それだけに最後までやり遂げるためには、原点である「人のために役立ちたい！」という、本学が追求する「人間力」を持ち続けることが何より大切だと思います。公共政策コースでは、学生の皆さんがＰＢＬ（=課題解決型学習）授業等を通じて人間力と実践力を身につけることを全力で応援します！

全8回 大阪成蹊大学 公開講座
「未来展望セミナー2020」
日時：2020年5月15日（金）より全8回
各回 18:30～20:30（懇親会含む）予定
定員40名 ※応募者多数の場合は抽選
後援：日本経済新聞社 協賛：ニッセイ基礎研究所、りそな総合研究所

これからの日本の未来を担う人材にとっては、世界の潮流を正しく見極めグローバルな競争を勝ち抜く知恵を身に着けることが不可欠です。そこで、大阪成蹊大学では、各界を代表する著名な先生方をお招きし、我が国にとって8つの重要なテーマを取り上げた連続講座「未来展望セミナー2020」を、一般の方を対象に開催します。詳しくは、本学HPをご覧ください。

▼詳しくはコチラ

https://univ.osaka-seikei.jp/lp/seminar_mirai/

大阪成蹊大学

原作・脚本・監督作品「サンタ・カンパニー～クリスマスの秘密～」「コルボッコロ」
全国公開記念特集

■クリエイター・教育者としての姿勢

活きた教育を行うために、現役のクリエイターであり続ける

大阪成蹊大学 芸術学部 学部長
糸曽 賢志 教授

10代で巨匠宮崎駿に師事し、「遊戯王」「トランスフォーマー」等の作品に参加。近年はSMAPコンサートツアー映像、「進撃の巨人」のオープニング映像等、幅広く手がける。監督作品は、「カンヌ国際映画祭」をはじめとした国内外の映画祭にて評価されている。

昨年末、監督2作品が全国で公開

2019年11月29日（金）より、私が監督するオリジナルアニメ「サンタ・カンパニー ～クリスマスの秘密～」と「コルボッコロ」が全国の劇場で同時上映されました。どちらもオリジナル作品のため、私が頭の中で思い描いたことを色々な人に正確に伝えるために、コミュニケーションをとって協力してもらいながら進めてきましたが、完成までは大変な道のりでした。また後ほど触れますが、作品を制作して展開するだけでなく、制作過程にできた素材を教材として二次利用する取り組みも行っており、今作は作品づくりと教育の懸け橋になる研究の一環でもあります。

「サンタ・カンパニー」は、クリスマスが大好きな私が考えた夢のお話。クリスマスにサンタクロースがプレゼントを届けてくれる…子供の頃に誰もが持つ夢物語を継続させるためには様々な問題があります。一晩でプレゼントを届ける方法、費用の捻出、普段サンタはどうやって生計を立てているのか…それらの答えがこの作品には詰まっています。クリスマスの奇跡が資本主義で成り立っていることを描くわけですが、その中に、働くことの意味や、親子の絆、友情などの要素を詰め込んでいます。花澤香菜さん、梶裕貴さんなどの有名声優の方々やタレントの小藪千豊さんにも参加してもらいました。

「コルボッコロ」は、巫女の血を引く14歳の姫の冒険を描いた作品。主人公の鈴役には女優の西野七瀬さんを起用しました。鈴は、ベテランの声優さんよりも自然に演技ができる新しい人に演じてほしいと思っていて、西野さんの名前が挙がりました。フワッと話す印象があったので快活な鈴とは違うイメージでしたが、彼女が変わる瞬間を見てみたいと思ってのオファーでした。実際やっていただいて、澄んだ声質も含めて、鈴のキャラにぴったりはまったなと思いました。

サンタ・カンパニーは通常のアニメ制作手法に則ってアニメスタジオと組んで作りましたが、コルボッコロはほぼ全ての映像を私一人で作っています。気の遠くなる作業でしたが、おかげで学生にアニメーション制作についての何を聞かれても答えられるようになりました。

▲「サンタ・カンパニー ～クリスマスの秘密～」

▲「コルボッコロ」

先輩クリエイターから学びつつ、既存の概念にはとらわれない

私は元々漫画家志望で、学生の頃から少年ジャンプの編集部に通っていました。この頃から、「できる作業は全部自分でやる」癖がついた気がします。同時期に、宮崎駿監督が募集した新人演出家オーディションがきっかけでジブリ演出を学ぶ機会を得ます。世界と戦っている人の姿勢の一端に10代で触れることができたのは貴重な経験でした。それから様々な商業作品に携わらせていただき、著名なクリエイターの方々と仕事をご一緒してきました。今は大阪成蹊大学で教鞭をとっていますが、教育者・研究者として大事なこともすべて、先輩クリエイターの皆様から教わった気がしています。

私は、先輩方から学べるところは学びながらも、常に常識を疑いながら、自分が気になることを解決するために行動するのが好きです。既存の概念に沿っていないので共感されないことも多く、資金集めなどに苦戦することもあります。それでも自分の行っていることはきっと誰かのためになると信じているので、作品制作の際は自身がリスクを負う意味も込めて、自己出資やクラウドファンディングの活用で資金を集めています。最初は無名でも続けているとファンは集まってくださるもので、これまでに購入型のクラウドファンディングを活用して集めた資金総額は8億円を超え、ギネス世界記録にも登録されました。また今作では投資型のクラウドファンディングにも挑戦しました。ソニー銀行が行う投資型クラウドファンドサービスとタッグを組んで、ありがたいことに2週間ほどで4000万円の資金を集めることができました。皆様から頂く信用を裏切らず、恩を返せるよう生きていくことを心がけています。

著作権を100%所持することで、制作過程の素材を教材として活用

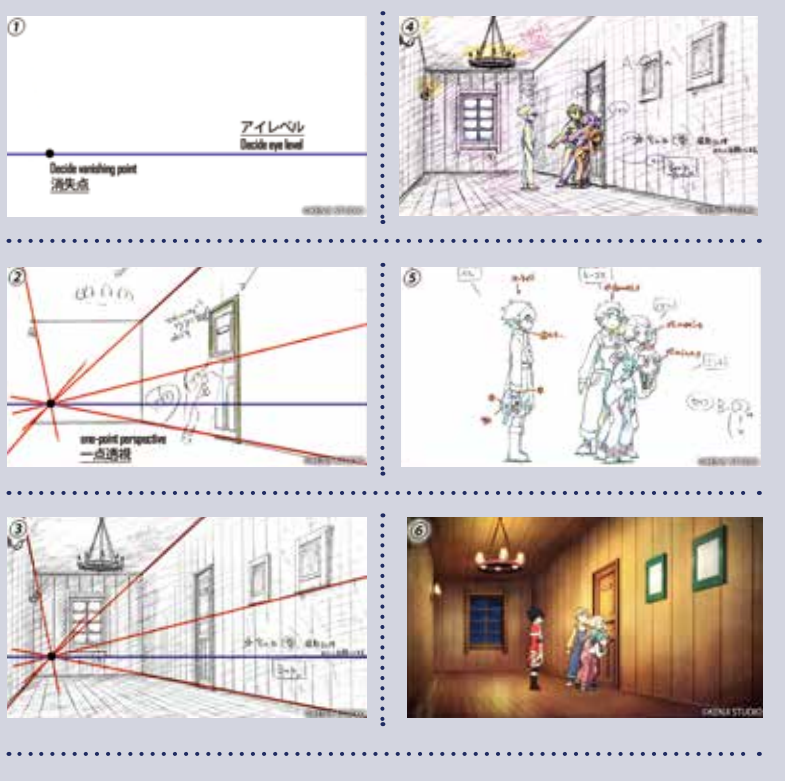
クラウドファンディングや自己出資を行う大きな理由は、「著作権をすべて私が所持できる」ということです。通常アニメや映画は複数の会社からお金を集めるため権利が分散します。ですから、何か作品を使った派生的な展開をしようとしてもなかなかスムーズにいかず、ビジネスチャンスを逃すことも多い。それを防ぐために、自分の作品の著作権は自分で持つことにこだわっています。その上で私が今注力しているのが、制作現場で生まれた素材を、アニメーション業界の後進育成のための教材として展開すること。今作を機に、さらにそれらを拡大していきたいと考えています。アニメーション制作には特殊な技術が求められる上に、分業が進み全工程を把握するスタッフは数少ないのが現状です。さらにデジタルの進化に伴い手法も変化するため、現役のクリエイターであり続けることは、活きた教育を行う上では必須なのです。

実際に教材としての活用方法をイメージしていただくため、「サンタ・カンパニー」の1カットを例に簡単に解説してみましょう。

例えば背景とキャラクターを描く方法。学生からも「背景が描けない！」と相談を受けることは多いです。この絵は「ドアの向こうの会話を盗み聞きする子供たち」。①の画像は、撮影者の目の高さを紫の線で表しています。この線をアイレベルと呼び、消失点と呼ばれる点を一つ決めます。②ではそこからパースの線を引っ張り、背景の基準を測ります。盗み聞きしている学生をこっそりと撮影している設定なので、目の高さは大人が見つからない様にかかんでいる高さです。③はそれを意識しながら細部を書き込んでいった線画です。窓を配置することで外の天気や時間も一目でわかるように構成しています。④はそこにキャラクターを配置した状態です。」キャラクターたちの絵を拡大したのが⑤です。重なっているキャラクターの表情がわかるようにポーズを工夫して描き、同時にそれぞれの性格も表しています。赤字は影などの色を塗る際の指示です。⑥は最終的に色を塗った画像です。

既に芸術学部の授業では、このように構図を決める際の工夫やキャラクターの演技の意味を学びながら、ソフトウェアの使用法も含めて作業工程を解説しています。何を伝えるために描くのか、そのためにどう描けばよいか、それを、プロの作成した素材をなぞりながら学べるというわけです。

現役のクリエイターであり続けること、そして現場のノウハウを教育に活かすことが私の使命だと思っています。学生の皆さんが、「こんなことを勉強したい」と声を挙げてくれるならば、あらゆるつながりを活用して期待に応えたいと思います。ぜひ皆さんも、「考え、行動する」ことを忘れないで突き進んでください。一生懸命続けてさえいれば、答えはおのずと近づいてくるはずです。



大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

海外研修体験記

大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学では、豊かな国際経験と語学力の修得、および専門分野をグローバルな視点で学ぶことを目的として、さまざまな短期海外研修を実施しています。今回は、「グローバル・アクティブラーニングプログラム」に参加した2名の学生にお話をお伺いしました。

ハーバード大学での講義受講、レッドソックス球団幹部との出会い、ボストンカレッジでのアメフト観戦…もりだくさんの1週間

参加プログラム:海外スポーツビジネス調査(アメリカ・ボストン)
参加日程:2019年9月3日～10日

大阪成蹊大学
マネジメント学部
スポーツマネジメント学科3年
東 亜吾人さん（あずま ああと）

世界最高峰のハーバード・ビジネス・スクール名誉教授の講義を受講

この研修に参加しようと思った一番のきっかけは、ハーバード・ビジネス・スクールの講義が受けられるということです。他大学の講義を受けられる機会自体貴重ですが、それがハーバード大学となるとなおさら。こんな経験は一生に一度かもと思い参加を決めました。私は講義を受けるに当たり、事前に数十ページの英字論文を読み込みました。専門用語を多く含む論文を理解することは簡単ではなかったですが、それだけでも英語力とスポーツマネジメントの知識が同時にアップしたように感じました。当日のスティーブン・グレイサー名誉教授の講義は、「ドイツのプロサッカーリーグ『ブンデスリーガ』のアメリカ市場参入」がテーマ。これまで学科で学んできたスポーツマネジメントの知識や、事前学習で学んだ放映権、リーグの仕組みに関する知識がなければ十分に理解できなかったと思います。講義では私たち学生から、アメリカのスポーツビジネスの現状についてや、「日本のプロ野球やJリーグがアメリカに進出したとすれば成功するか」など様々な質問も出て、ディスカッションを通して考え方を広げることができた充実した時間でした。

メジャーリーグ「レッドソックス」で働く日本人球団幹部の方との交流

ハーバード大学での講義のほか、私が価値観を揺さぶられたのは、「ボストン・レッドソックス」で球団幹部として働く吉村さんという日本人の方にお会いした事です。私たちは吉村さんの案内で球団本拠地「フェンウェイパーク」を見学し、球団の歴史や球場内の整備の取り組みについて知ることができました。また別途講義もしていただき、レッドソックスのオーナー会社は、英プレミアリーグ「リバプールFC」や自動車レースチーム、テレビ局、マイナーリーグチームなどを保有しており、野球だけでなく幅広いスポーツビジネスを展開していることを教えていただきました。

これまで日本を出たこともなく海外で働くなど考えたこともなかった私にとって、吉村さんが様々な人との縁を頼りにレッドソックスで働くチャンスをつかみ、努力してきたエピソードはとても新鮮で印象的でした。話を聞くうちに自分自身も、今まで無意識に諦めていた目標にも挑戦したいと思えてきて、今一度将来の夢について考えるきっかけとなりました。

日本とは違うアメリカの大学スポーツの規模の大きさ、人気に圧倒される

研修後半には、ボストンカレッジで大学アメフトの試合を観戦しました。2万人を超える観客が訪れ、ブラスバンドやチアがプレーの合間に応援を行ったり、試合前には観客がキャンパス内でバーベキューをしていたりと、日本の大学スポーツとは大きく異なる規模や一般に向けたエンタテイメント性に驚きました。日本の大学スポーツがこのように産業化されるためにはどうすればよいのだろう…とも考えました。

この時、試合を観戦しに来ていたボストンの家族と仲良くなれたことも思い出のひとつです。私がストレッチがてらテニスの素振りをしていると、家族の父親が「Do you play tennis?」と話しかけてきました。彼もテニスプレイヤーだったそうで、それをきっかけに会話をしたり一緒に写真を撮ったりしました。国籍に関係なく、同じスポーツをしているだけで仲良くなれるというスポーツの素晴らしさを実感しました。

研修を終えて、自分のキャリアを見つめ直そうと考えるようになりました。今は、スポーツイベントの広告と収益の関係性に興味があることと、多くの人に影響を与えられる仕事がしたいという思いから、将来は広告代理店で働いてみたいと考えています。いつかはスポーツイベントやクラブチーム、スポーツ関連企業などに関わる広告の仕事を通じて、スポーツの魅力を多くの人に発信することに携わっていけたら素敵だなと思います。

▲ハーバード・ビジネス・スクールにて

▲ボストンカレッジでのアメフト観戦

▲フェンウェイパーク外観

ファッションの本場パリで刺激の連続！視野が広がり、ファッション業界で働く上での土台に

参加プログラム:パリ海外研修(フランス・パリ)
参加日程:2019年8月28日～9月3日

大阪成蹊短期大学
生活デザイン学科2年
今北 美緑さん（いまきた みのり）

ファッションの歴史・文化的背景を学ぶ

高校生の頃からもともと洋服やおしゃれが好きで、ファッションに関する仕事に就くことをめざしてきましたが、これまでは日本国内のブランド・デザインだけに注目してきました。しかし今回パリでファッションの歴史に触れ、現地で活躍する業界の方々にお会いできたことで、とても視野が広がりました。

ヴェルサイユ宮殿やルーブル美術館、オルセー美術館では、ファッションの起源、服飾史に関わる絵画や彫刻を見学し、日本でなかなか学ぶ機会のなかった世界の各時代の服飾の特徴、変遷、そして時代背景やドレスコードの違いなどを知ることができました。ファッションがいかにそれぞれの時代の文化や政治的背景を色濃く反映しているかを改めて意識しました。他にもイヴ・サンローラン美術館や、ルイ・ヴィトン財団が所有する美術館など、パリを代表するブランドの関連施設を巡り、世界中に愛される個性的で美しいアイデアが職人たちの手によって形作られてきたことについて非常に感銘を受けました。

ファッション最先端の地で活躍する方々との出会い

研修では、パリのファッション業界で実際に活躍されている方々との交流の機会も多くありました。1830年創立のフランス最古の服飾系学校「A.I.C.P.(Academy International Cutting De Paris)」では、校長先生のお話を伺い、授業風景を見学しました。A.I.C.P.はモデリスト(パタンナー)の養成学校で、卒業者の多くはシャネル、ディオール、サンローランなどの有名メゾンで活躍しているそうです。

また特に私の印象に残っているのが、パリで活躍する日本人ファッション・デザイナーの石井美佳子さんという方にお会いできたことです。石井さんが運営するブランド「AMBALI」のショップにお邪魔し、ショップの開店からこれまでの運営にいたるエピソードや、ブランドとしてのこだわりなど、たくさん質問してお話しすることができました。夜には、石井さんと、日仏のファッション業界で活躍される齋藤統さん※との交流会にドレスアップして参加し、さらに幅広いお話を伺うことができて勉強になり、とてもわくわくする時間を過ごしました。

※1980年にパリコレデビューを目指すファッション・デザイナー山本耀司氏がヨーロッパで会社を立ち上げた時に社長を務めたほか、イッセイミヤケ・ヨーロッパの社長も務める。2008年にはフランス政府より芸術文化勲章を授与された。

夢はVMD、経験を生かして業界で活躍したい

今までは正直、海外のファッション文化への意識が薄かった部分もありましたが、ファッション最先端の地パリでファッションに特化した貴重な体験をたくさんできたことで、より幅広い知識や考え方を持つことの大切さを学びました。私は卒業後、アパレル店頭スタッフとして接客の仕事に就くことが決まっています。経験を積んで、将来的にはショップの内装や店内のレイアウトなどをプランニングし、より商品が魅力的に見えるような売り場作りを行うVMD(ビジュアルマーチャンダイザー)という仕事にも挑戦したいと思っています。ファッション業界で働いていく上で、このパリ研修での刺激的な経験はかけがえのない土台のひとつとなったと感じています。

▲パリ・エッフェル塔前にて

▲ルーブル美術館を見学

▲「AMBALI」のショップ

▲交流会の様子

びわこ成蹊スポーツ大学

サッカー部(男子)から 5人のJリーガーが誕生!

interview!

糸原 紘史郎
(イトハラ コウシロウ)
ポジション:GK
加入内定チーム:ガイナーレ鳥取(J3)
出身高校:広島県立吉田高等学校
(サンフレッチェ広島FCユース)

青山 景昌
(アオヤマ ヒロアキ)
ポジション:FW
加入内定チーム:福島ユナイテッドFC(J3)
出身高校:享栄高等学校(愛知県)
(名古屋グランパスU18)

井上 直輝
(イノウエ ナオキ)
ポジション:FW/キャプテン
加入内定チーム:ブラウブリッツ秋田(J3)
出身高校:立正大淞南高校(島根県)

忽那 喬司
(クツナ キョウジ)
ポジション:MF
加入内定チーム:愛媛FC(J2)
出身高校:愛媛県立松山工業高等学校
(愛媛FC U-18)

田中 勘太
(タナカ カンタ)
ポジション:GK
加入内定チーム:カターレ富山(J3)
出身高校:明成高等学校(宮城県)
(ベガルタ仙台ユース)

創部以来昨年までに13人のJリーガーを輩出しているサッカー部(男子)。昨年6月には、第48回関西学生サッカー選手権大会で初優勝するなど、目覚しい活躍を見せるなか、今年は5人のJリーガーを輩出します。選手や監督、コーチに、サッカー部や今後の抱負などについてのお話をお伺いしました。

びわこ成蹊スポーツ大学の目指すサッカー、スタイルは?

(望月監督)よく聞かれるのですが、特別なものはないです。あえて言えば、「臨機応変に勝つ」でしょうか。攻撃的なチームを作っても相手が強い場合、守備的になるし、相手が弱い場合、自然に攻撃的になります。基本として何をするべきか、何をしてはだめかということをしっかり理解・練習して、最終的に勝つというサッカーを目指しています。負けてばかりだと面白くないし、どんな状況でも臨機応変に対応できる選手やチームになろうよと、日頃から言っています。

今年のチーム、選手の特徴は?

(望月監督)そんなにたいしたことのない学年です(笑)。いや、たいしたことがあるから、これだけの数の選手がプロになるのでしょう。

プロの選手が、1名でも誕生することは、指導者冥利に尽きます。でも自分が育てたとは思っていません。私のモットーとしては、選手自ら育って欲しいと考えています。創部15年、昨年6月の関西学生選手権で初優勝を勝ち取りました。キャプテン井上を中心に選手が自分自身でよく考え、トレーニングをして力をつけてきた結果だと思います。そこは評価してあげたいです。

びわこ成蹊スポーツ大学への進学動機は?

井上選手

糸原選手

(井上)本学に進学した理由は、松田陸・力選手をはじめとする多くの高校の先輩が、びわこ成蹊スポーツ大学を経てプロの道に進んでいることを知り、自分もそのようになりたいと思ったからです。

(糸原)将来はプロ選手になるという夢とレベルの高いリーグに所属している大学でプレーしたかったからです。サッカーの観点以外では、アスレティックトレーナーの勉強をしたかったからです。

(青山)僕は、一度他の大学に入学したのですが、自分の兄が本学の卒業生だったことと、いろいろな方のご縁やサポートもあり、入学を決めました。

びわこ成蹊スポーツ大学の魅力は?

忽那選手

(井上)本学の魅力は、スポーツの様々な分野で活躍された素晴らしい先生方が、自らの経験に基づいてスポーツ選手の成長につながることを講義で教えてくれることと、自然に囲まれているので広いフィールドでサッカーをする環境があるというところです。

(忽那)すばらしい教授陣が多くて、いろんな分野や角度からスポーツを学べる点です。体の面だけではなく、心理学なども学べる点がよいなと思います。サッカー部の特徴としては、もちろん基本の練習メニューはあるのですが、学生の主体性が重視されているところです。他大学との試合では、大声を張り上げて厳しそうな監督もいますが、その点、望月監督は冷静なところがいいです。

田中選手

(糸原)たくさんありますが、8割近くの学生が部活動に所属してそれぞれ頑張っているということです。大多数の学生がスポーツ活動に取り組んでいるということで、とても活気がありますし、スポーツを通して人として成長した学生が多くいることなどから、僕はとても居心地の良さを感じています。

(田中)トレーニング・健康コースにいるのですが、自分のパフォーマンスを知識面も理解しながら向上させることができるところがよい点です。

プロ選手になるにあたり現在の心境をお聞かせください

(井上)夢であったプロサッカー選手になりますが、スタートラインにようやく立てたという感覚です。今後はプロとして生きていくための武器を見つけて、夢を与えられるようなサッカー選手になりたいです。秋田県を47都道府県の中で1番熱い県にしたいと思います。

青山選手

(忽那)今度お世話になるチームは、僕の地元ですので、地元に恩返しがしたいと思っています。中学高校から知っている選手やスタッフの方も多いので居心地がよく、やりやすいと感じています。

(青山)自分のプレースタイルにあうチームなので、不安はないです。ゼロからスタートし、競争に勝って、試合に出られたらいいなと思っています。

(田中)自分のプレースタイルと常に上を目指す信念があれば、やっていけるという自信があります。

(糸原)夢であったプロ選手になるということが叶って驚きと嬉しさがあります。と言うのも、大学のチームでは控えキーパーだったので出場する試合は少なかったのに、それでも自分を見てくれたチームがあって、それがガイナーレだったということにとても感謝しています。

監督・コーチから選手へのメッセージ

(望月監督)プロ選手になってからが、真価を問われます。Jリーグにとどまらず、日本代表や海外のチームでプレーするくらいの気持ちで頑張って欲しいです。

(北村コーチ)「主体性」という言葉がでましたが、プロで長くやっていくと、いろんな監督のもとでプレーすることになります。環境に左右されるのではなく、自ら主体的に対応していく力が大切になってくると思います。びわスポでの学びや経験が、プロでも活かされればいいですね。

(石間コーチ)下級生の頃から主力で活躍していたメンバーなので、期待感を持って見ていました。4年次生になり頼もしい存在になりました。プロの世界は大変でしょうが、頑張ってください。

望月 聡(モチヅキ サトル) 監督
北村 裕貴(キタムラ ユウキ) コーチ
石間 寛人(イシマ ヒロト) コーチ

選手の主体性を重視した、サッカー部(男子)。今回プロになる各選手からは、主体的に考え、行動する様子がうかがえました。びわこ成蹊スポーツ大学の開学の理念に、「我が国の閉鎖的な体育思考から脱却し」とありますが、その一端を選手の皆さんから感じることができました。

照準は、世界へ。
大阪成蹊学園の活躍するアスリートたち

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

■ 女子陸上競技部

4×400mR優勝
左から春木選手、柳谷選手、桑原選手、齋藤選手

写真提供 月刊陸上競技

三段跳優勝　河合選手

写真提供 月刊陸上競技

大会結果

女子総合の部 大阪成蹊大学	第3位	52点
トラック競技の部	第2位	39点
フィールド競技の部	第6位	13点
多種目優勝の部	第1位	4種目優勝

インカレ4種目で優勝!

4×100mR優勝　左から柴山選手、齋藤選手、柳谷選手、朝野選手

写真提供 月刊陸上競技

2019年9月12日(木)～9月15日(日)岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催された「第88回日本学生陸上競技対校選手権大会」に女子陸上競技部が出場し、女子200m、女子4×100mリレー、女子4×400mリレー、三段跳の計4種目で優勝した結果、「多種目の部」では優勝、総合3位となりました。

女子100m	第3位	11秒80	齋藤 愛美(マネジメント学部スポーツマネジメント学科2年)
	第4位	11秒85	柳谷 朋美(マネジメント学部スポーツマネジメント学科3年)
女子200m	優勝	24秒17	齋藤 愛美(マネジメント学部スポーツマネジメント学科2年)
女子400m	第5位	56秒04	桑原 綾子(マネジメント学部スポーツマネジメント学科2年)
女子4×100mリレー	優勝	45秒02	柴山 沙也香(マネジメント学部スポーツマネジメント学科4年)
			齋藤 愛美(マネジメント学部スポーツマネジメント学科2年)
			柳谷 朋美(マネジメント学部スポーツマネジメント学科3年)
			朝野 夏海(マネジメント学部スポーツマネジメント学科3年)
女子4×400mリレー	優勝	3分37秒80	春木 麻実伽(マネジメント学部スポーツマネジメント学科3年)
			柳谷 朋美(マネジメント学部スポーツマネジメント学科3年)
			桑原 綾子(マネジメント学部スポーツマネジメント学科2年)
			齋藤 愛美(マネジメント学部スポーツマネジメント学科2年)
女子走幅跳	第4位	6m07	河合 栞奈(マネジメント学部スポーツマネジメント学科4年)
女子三段跳	優勝	13m65	河合 栞奈(マネジメント学部スポーツマネジメント学科4年)

※大会新記録、関西学生新記録

■ フットサル部

フットサル橋野司選手 バサジィ大分に加入

橋野選手

フットサル部に所属する橋野司選手(マネジメント学部スポーツマネジメント学科4年)が、2019年9月にFリーグ「バサジィ大分」に加入しました。橋野選手は2018年秋から冬にかけて同チームの特別指定選手としてFリーグの試合に出場していましたが、このたび実力を評価され、チームへの正式加入となりました。9月からは本学に在籍しながらFリーグの契約選手として試合に出場しています。

■ バトントワーリング部

インターナショナルカップ金メダル

廣瀬選手

「第10回WBTFインターナショナルカップ」

■廣瀬 愛(マネジメント学部スポーツマネジメント学科3年)
アーティスティックトワール〈女子シニアの部〉　第1位
アーティスティックペア〈シニアの部〉　第3位

■髙橋 一生(マネジメント学部スポーツマネジメント学科4年)
アーティスティックトワール〈男子シニアの部〉　第6位

バトントワーリング部の髙橋一生選手(4年)、廣瀬愛選手(3年)、卒業生の木下水希選手が、2019年8月5日(月)～11日(日)フランス・リモージュで開催された「第10回WBTFインターナショナルカップ」に出場。廣瀬愛選手は、アーティスティックトワール(女子シニアの部)で見事金メダルを獲得しました。

2年連続 大学チャンピオン

2019年12月7日(土)·8日(日)、幕張メッセイベントホールで開催された「第47回バトントワーリング全国大会」では、2年連続で大学日本一の最優秀賞を受賞しました。

■ ソフトテニス部

男子1部昇格!

2019年9月14日(土)、15日(日)に開催された「2019年度関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦」にソフトテニス部が出場し、男子が2部で優勝、入れ替え戦に勝利し、見事1部への昇格を果たしました。

■ 卓球部

男女ともに2部昇格!

2019年8月30日(金)～9月1日(日)、9月4日(水)～9月6日(金)に、京都で開催された「2019年度秋季 関西学生卓球リーグ戦」に卓球部が出場し、男女ともに3部で優勝、入れ替え戦に勝利し、2部への昇格を決めました。また、今井淳彦選手(マネジメント学部スポーツマネジメント学科2年)と皆川愛華選手(教育学部教育学科中等教育専攻保健体育教育コース2年)は、3部校敢闘賞を受賞しました。

大阪成蹊学園

■ チアダンス部

NEW! 新たに「チアダンス部」を創設

2020年度、大阪成蹊学園に「チアダンス部(高等部·大学部)」が創設されます。学園各校の運動部の試合における応援や、学園全体のイベント、プロモーション活動でパフォーマンスを行う予定で、プロフェッショナルなダンスパフォーマンスとチアスピリットを持つチームをめざします。
コーチには競技者·指導者として経験豊富な行武祐美子氏が就任。行武氏は、社会人アメリカンフットボールのチームにてコーチング指導の下、2度の日本一を勝ち取ったほか、個人でもNFL TOKYO New York Jetsチアリーダー選抜メンバーに選ばれるなど数々の経験を持ちます。興味のある方はスポーツ＆カルチャーセンターまでお問い合わせください。

行武祐美子コーチ

大阪成蹊女子高等学校

■ 陸上競技部

U20日本陸上競技選手権 出場

吉岡里紗さん(普通科キャリア特進コース3年)が、10月18日(金)～20日(日)に広島広域陸上競技場で行なわれた第35回U20日本陸上競技選手権大会に100mハードルに出場しました。

大阪成蹊学園

第9回大阪成蹊 全国アート＆デザインコンペティション〈審査結果〉

theme 未来への発信 OSAKA SEIKEI ART & DESIGN COMPETITION 2019

ごあいさつ～審査を終えて～ 大阪成蹊大学 学長 武蔵野 實

今年度で9回目の開催となる「第9回大阪成蹊全国アート＆デザインコンペティション」の審査が行われ、各賞が決定いたしました。中学生の部850点、高校生の部1,139点の合計1,989点と大変多くのご応募をいただきありがとうございました。
今回も「未来への発信」というテーマにふさわしい、未来への希望を感じさせる作品や、新たな表現に挑戦した作品など、力作、秀作が揃い、本コンペティションを大いに盛り上げていただきました。ご指導いただきました中学校、高等学校の先生をはじめ多くの方々のご尽力に厚く感謝申し上げます。

中学生の部

大阪成蹊芸術大賞

▲大阪成蹊芸術準大賞

▲A部門金賞

▲B部門金賞

▲毎日新聞社賞

大阪成蹊芸術大賞	守口市立庭窪中学校2年	田村 和心さん	【“once again”】
大阪成蹊芸術準大賞	大阪市立大桐中学校2年	宮﨑 舞琴さん	【激情のゆくえ】
毎日新聞社賞	大阪市立天王寺中学校3年	北口 愛里さん	【未来を見据える少女】
A部門金賞 イラストレーション・マンガ・キャラクター	茨木市立東中学校3年	藤原 瑞桜さん	【底なし】
B部門金賞 美術	豊中市立第十四中学校2年	青木 海さん	【交わる世界】

高校生の部

大阪成蹊芸術大賞

◀大阪成蹊芸術準大賞

◀毎日新聞社賞

▶A部門金賞

▲B部門金賞

▲C部門金賞

▶D部門金賞

▶E部門金賞

大阪成蹊芸術大賞	京都市立銅駝美術工芸高等学校3年	源光寺 咲季さん	【INDIVIDUALITY —What overflows from me—】
大阪成蹊芸術準大賞	大阪府立港南造形高等学校2年	山本 流瑠さん	【生命】
毎日新聞社賞	大阪成蹊女子高等学校3年	窪野 恵奈さん	【いいねがほしい】
A部門金賞 グラフィックデザイン・イラストレーション	神戸市立六甲アイランド高等学校3年	若林 いぶきさん	【1年10組テスト返し】
B部門金賞 マンガ・アニメーション	大阪成蹊女子高等学校3年	上田 葵依さん	【はじめてのおつかい】
C部門金賞 写真	山口県立下松高等学校3年	新本 真子さん	【茜と踊る風】
D部門金賞 インテリア・プロダクトデザイン・ファッション・テキスタイル	大阪市立工芸高等学校3年	長山 詩渚さん	【bloom.】
E部門金賞 美術・工芸(絵画・立体・工芸)	大阪府立港南造形高等学校2年	福山 鈴奈さん	【不可視】

大阪成蹊短期大学 生活デザイン学科

第8回 高校生 ファッションデザイン画コンテスト

2019年度「第8回高校生ファッションデザイン画コンテスト」の審査が行われ、合計601点の応募作品の中から、30点の受賞作品が決定いたしました。たくさんのご応募誠にありがとうございました。入賞作品に関しましては、2019年12月15日(日)の本学オープンキャンパス にて展示されました。
またグランプリ、準グランプリ、審査員特別賞、優秀賞については、2020年1月26日(日)に行われる生活デザイン学科卒業制作コレクションにて授賞式を行います。

グランプリ
岐阜県立大垣桜高等学校 3年
髙橋 結愛さん

準グランプリ
啓新高等学校 3年
南部 亜弥さん

―大阪成蹊短期大学附属― こみち幼稚園だより

こみち幼稚園にポニーがやってきた!!

2019年9月5日(木)、茨木市にある「ぱかぽこひろば」から2頭のポニー(リッチとサクラ)がやって来ました。実物のポニーと適切な方法でふれあうことで、馬にも人間と同じ気持ちがあることを知り、命の温かさや愛情を感じることをねらいとして実施しました。
全員がふれあいを体験できるように、年齢別に内容を工夫しました。年少は、実際にポニーに触ってなでて、おやつのニンジンをあげました。年長は、鞍をつけたポニーに乗り、年中は、そのポニーのたづなを握って引きました。
土山を登って降りてくるコースを1周回って帰ってきてから、皆でニンジンをあげました。給食を食べてからも廊下からポニーたちに手を振ったり名前を呼んだり、スケッチブックに絵を描いたり、園児たちはポニーに愛着を感じているようでした。
ポニーが帰るときは、皆でお見送りをしました。雨が降っていたので、傘をさしてるかなあと心配する園児もいました。動物の命に触れるこの取り組みを、今後も継続していきたいと考えています。年中さんは、来年ポニーに乗るのを楽しみにしています。

こみち幼稚園園長　水上明美

子ども達のつぶやき★

【年少さん】
- 「ふわふわ」 ●「また、あいたい」
- 「歯磨きしないと」(歯を見せてもらうと草がいっぱいついていたので)
- 「ちょっとくさい～おふろ入るの？」
- 「かわいい！あったか～い！うちのソファーみたい」

【年中さん】
- 「年長さんになったら乗れるかな？」 ●「もっとさわってみたい」
- 「もう1回したい」 ●「楽しかった」

【年長さん】
- 「リッチちゃんのしっぽみたいに三つ編みしたろか？先生」
- 「背中に乗ったら遠くまで見えた」
- 「また乗りたい」 ●「にんじんもっとあげたいなあ」